

現代社会理解実践(環境インターンシップ★)は、企業・市役所などにおける環境実務への参加を通して、企業や自治体の行っている環境活動についての理解を深めると共に、実務に必要なスキルや態度を習得することを目的として開講しています。例年、インターンシップ受け入れ先として、東芝メモリ株式会社(四日市工場)、ミキモト真珠島真珠博物館、亀山市役所、三重県地球温暖化防止活動推進センター、伊勢商工会議所などの機関からご協力を頂いています。

学生たちは、4月に履修登録を行い、5月にガイダンス、6月および7月に事前指導を受けた後、夏休み期間に1週間~2週間のインターンシップに参加します。平成29年度は、医学部、工学部、生物資源学部の1年生から計7名の学生の履修登録がありました。学生の希望およびマッチングの結果に基づき、受入れ先の内訳は、ミキモト真珠島真珠博物館で2名、三重県地球温暖化防止活動推進センターで3名、本学の国際環境教育研究センター支援室で2名となりました。

このうちミキモト真珠島真珠博物館では、8月21日から25日までの5日間のインターンシップが実施され、学生たちは来館者への真珠ワークブックの配布やその解説、真珠貝の種類・特徴および真珠ができる仕組みの説明といった業務を経験しました。

以下に記すのは、ミキモト真珠島でインターンシップを受けた学生の声です。

学生の声

西島 旬哉
生物資源学部2年生



インターンでは博物館に来たお客様に、ブースの説明などを行っていたので、人と接する機会がたくさんありました。そこでは、子どもからお年寄りまで国内外問わずさまざまな人と出会い、会話することの楽しさを得ることができました。

また、私たちの説明が伝わり内容を理解してもらうことができたときには、何にも変えることのできない達成感を感じました。仕事をする楽しさを知ることができたと思います。

例年、10月下旬に、事後報告会を実施しています。学生たちには、活動内容や学んだことについて、10分以内でのプレゼンテーションを課しています。

毎回、学生たちの発表から感じられることは、このインターンシップが、環境分野で仕事をするということがどういうことなのかについて、大学の内側だけでは決して得られない貴重な学びの機会となっていることです。ここ数年受講者数が少ない状況が続いていますが、開講時期や開講形態を見直し、より多くの学生が参加できるように授業にしていきたいと考えています。

声

VOICE

Vol.3

生物資源学部 共生環境学科 2年 | 山中 晴名

私が環境ISO学生委員会で活動をする中で日々感じていることは、伝えることの難しさです。私たちの委員会では三重大学生の環境マインド向上を目的の一つとして活動しています。海岸清掃の学生参加者を募集する時、再生可能容器リ・リパットの回収を呼び掛ける時などに、学生一人ひとりに環境活動を自分のこととして捉えてもらうことの難しさをひしひしと感じます。しかし、誰かに強制されて環境活動をするのでは、本当の意味での環境マインドは育たないと思います。そのために私は、「環境」という言葉を日々の生活の中により多く織り込むことを一つの目標としています。その積み重ねによって、無意識の内に自ら環境に優しい行動を取る学生が増えることが私の理想です。そのためにはまず、私たちが現在行っている環境活動を継続・改善し、声を上げ続けることが大切だと

考えます。仲間と意見を交わし合い試行錯誤する時間はとても楽しく、充実した時間を過ごせています。



★のマークの解説はP72.P73の用語解説をご覧ください